

## 令和2年7月臨時教育委員会会議録

令和2年7月30日 臨時熊谷市教育委員会を熊谷市役所議会棟第1委員会室に招集する。

### ○ 出席者

野原 晃、齋藤 洪太、西山 富由紀、大石 聡一、加藤 道子

### ○ 出席事務局

教育次長	田島 齊
教育総務課長	長谷川 和博
学校教育課長	長谷部 巧
学校教育課指導主事	高草木 裕也
学校教育課指導主事	深澤 信也
教育総務課副課長	橋本 明美
教育総務課主任	吉場 美和

### ○ 令和2年度第17採択地区教科書選定委員会委員長及び委員

## 9時00分 臨時教育委員会開会

教育長から、令和2年7月臨時熊谷市教育委員会の開会の宣言があり、傍聴希望者10名の入室が許可され、本会議の会議録の署名人には、西山委員が指名された。

教育長から、議案第28号の採決部分は非公開としたい旨の発議があり、出席委員全員が賛成し、非公開で審議されることに決定した。

### **議案第28号 令和3年度使用中学校用教科書（特別の教科 道徳を含む）の採択について**

教育長から、本議案について説明するよう発言があり、事務局から、以下のとおり説明があった。

#### ○事務局

本議案は、令和3年度から熊谷市立中学校で使用する教科用図書の採択をお願いするものである。

教科書の採択については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条により、埼玉県教育委員会の指導助言の下、本市教育委員会で行うこととされていることから、教科書の採択を行うもので、今年度採択する教科書は、特別の教科 道徳を含む中学校用教科書である。

本日までには教科書調査研究専門委員会による研究、学校研究及び教科書展示会アンケ

ートを基に、教科書選定委員会において、全ての教科書について協議・検討を重ねてきた。

本日の協議では、各種目の担当の選定委員から、これまでの協議、検討を基に、本市の中学校で使用する教科書について推薦を行い、教育委員会委員の皆様には、選定委員からの推薦について、協議をおこなっていただき、採決をお願いする。

### ○教育長

国語について説明を求める。

### ○選定委員

「国語科」の教科書は、「東京書籍」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書出版」の4社である。そのうち、選定委員会としては、「教育出版」と「光村図書出版」の2社を推薦する。

「教育出版」は、育成すべき資質・能力である「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の学習がバランス良く位置付けられている。また、教師が学習内容を反復的に指導できるよう、単元構成が工夫されている。

1年生の186ページを見ていただくと、「思考力・判断力・表現力を育成するための手立て」として、このように多様で異なるテキストを組み合わせ、自分の考えを書くなどの「学びチャレンジ」のコーナーが各学年に掲載されている。図や表、グラフ、小説、資料を読んで、自分の考えをまとめるなど、考える力や目的に応じて判断する力、表現する力を高める工夫が見られる。

また、単元のはじめにある、学習の目標や進め方を示した「学びナビ」を活用することによって、生徒が見通しをもって主体的に学習できるように工夫されている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、国語科の視点から国連SDGsを教材化していることにより、道徳科をはじめ、他教科との教科横断的な学びができるように配慮されている。

「光村図書出版」は、巻頭の「思考の地図」により、様々な考え方をわかりやすいイラストを使用して多く紹介している。

各単元には学習のポイントを整理した「学習の窓」という項目が示されている。更に巻末の「学習の窓一覧」で、ポイントを体系的に捉えられるようになっており、学習内容の振り返りが容易にできるようになっている。

「情報の扱い方」については「思考、情報整理のレッスン」と題し、見開きの教材を設け、図や例を用いた説明により、実践的な知識及び技能を習得できるように配慮されている。

生涯を通じての読書活動につながるように、各学年において様々な方法で読書に

関わる学習を行っている。

来年度より全面実施となる学習指導要領の要は「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善である。「教育出版」は、単元のはじめに「学びナビ」が示され、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」について生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されており、国語科で学んだ力を他教科や社会生活において発揮できる教科書であると考えられる。このような理由から、「教育出版」を推薦する。

**【質疑応答】**

**○委員**

生徒にとって使いやすい教科書となっているか。

**○選定委員**

「教育出版」は、「学びナビ」により、予習として活用したり、学習の初めに何をどのように学ぶのかを確認したりすることができ、生徒が学習に取り組みやすくなっている。

「光村図書出版」は、てびきの「学習」の内容が丁寧であり、生徒にわかりやすくなっている。

**○委員**

他教科との関連や、日常生活につながるような学習は、どのように工夫されているか。

**○選定委員**

「教育出版」は、「学びを生かそう」で他教科、学校行事の視点で、「光村図書出版」は、「つなぐ」で学校生活、日常生活、将来という視点を提示している。

「教育出版」は、「総合」の単元で他教科の内容との連携を図るとともに、「問う力」が他の教科学習にも生きている。

**○委員**

国連SDGsとは何か。

**○選定委員**

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193カ国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標である。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されている。

### ○教育長

国語については、「教育出版」と「光村図書出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

### ○委員一同

異議なし

### ○教育長

次に、書写について説明を求める。

### ○選定委員

「書写」の教科書は、「東京書籍」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書出版」の4社である。そのうち、選定委員会としては、「教育出版」と「光村図書出版」の2社を推薦する。

「教育出版」は、1時間ごとの学習手順「①目標→②考えよう→③生かそう→④振り返ろう→⑤学習や日常生活に生かそう」が明確化されている。また、学習指導要領が目指す育成すべき資質・能力を図で示すことにより、身につける力を系統的・段階的に見通せるようになっている。また、書写テストも設けられており、書写の知識や理解、定着を図ることもできる。

48、49ページを見ていただくと、行書の特徴である「連続」「変化」、他にも「省略」をアイコンで示すことで、ポイントを理解しやすいように工夫している。右ページは半紙形になっており、書き始めの位置や字形の整え方、文字の大きさと余白のとり方などが実感できる。左ページの詳しい解説は、理解がより深まるよう工夫されている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、日本の文字文化の豊かさにふれる機会として、文字の表現効果を学ぶ。また、環境保全や防災などの国連SDGsに関する内容を設けるなど、次世代に生きる生徒を支援しようとする姿勢が見受けられる。

また、国語科の文学作品だけでなく、書籍の帯やポップの作り方、ポスターや案内状の書き方、社会の横書きノートや、理科の植物観察レポートなど、書写の学びを他教科や日常生活に生かすための工夫がされ、教科横断的な学習にも対応している。

「光村図書出版」は、全教材に「学習の窓」が設けられており、学習のポイントが一目でわかるようになっている。また、硬筆練習帳「書写ブック」では毛筆学習を生かして、硬筆に取り組むことができ、学習の定着を図っている。

教材ごとにQRコードを用いて、筆使いなど学習に役立つ資料を閲覧することができ、生徒が取り組みやすくなっている。また、行書特有の特徴である「丸み」、「点

画の連続」、「点画の変化」、「点画の省略」、「筆順の変化」をポイントごとに振り返られるよう、行書学習の初めに関連ページがまとめられている。

「教育出版」は、主体的・対話的で深い学びへ向かえるよう、話し合い活動が盛り込まれ、生きて働く書写力、思考を働かせて書く国語の表現力を高める教材を掲載している。合冊構成になっており、学年ごとのベースカラーにより、振り返りが見通しをもった学習がしやすくなっている。ユニバーサルデザインを使用した配色や文字のレイアウトのほか、文章表現も平易で簡潔であるため、本市の生徒にとって学びやすい配慮がなされている教科書であると考えられる。このような理由から「教育出版」を推薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

学習指導要領が目指す育成すべき資質・能力とのかかわりについて、どのような工夫があるか。

##### ○選定委員

「教育出版」では、1時間ごとの学習手順「①目標→②考えよう→③生かそう→④振り返ろう→⑤学習や日常生活に生かそう」が明確化されていることで、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ態度を総合的に学ぶことができる。

「光村図書出版」では、主体的に学習できるように①考えよう→②確かめよう→③生かそうという展開がわかる構成になっているため、見通しをもって、学習に取り組むことができる。

##### ○委員

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」は、どのように工夫されているか。

##### ○選定委員

「教育出版」では、環境保全や防災などの今日的な課題をテーマにするなどの国連SDGsに関する内容が設けられている。また、国語だけでなく、社会や理科での活用方法にも言及している。

「光村図書出版」では、学習したことを学校生活に生かせるよう、ポスターづくりや新聞づくりに生かせるような発展的な内容につなげている。

##### ○教育長

書写については、「教育出版」と「光村図書出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

##### ○委員一同

異議なし

### ○教育長

次に、社会 地理的分野について説明を求める。

### ○選定委員

「社会科 地理」の教科書は「東京書籍」、「教育出版」、「帝国書院」、「日本文教出版」の4社である。そのうち、選定委員会としては、「東京書籍」、「教育出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」は、教科書の編や章の構成が、課題を「つかむ」「追究する」「解決する」「基礎・基本のまとめ」という流れになっている。20、21ページを見ていただくと、1単位時間の構成は、「導入資料」から「学習課題」、本文、課題を解決するための「チェック&トライ」という流れになっており、生徒は自分の思考を整理しながら、段階的に学びを深められるようになっている。また、多様な思考ツールを活用して考察する「まとめの活動」により、自分の思考を整理し、学びを深められるようになっている。

また、学習指導要領に示された「集める」「読み取る」「まとめる」の側面から、技能を活用するコーナーを設け、資料を読みとり、表現する力が高められるようになっている。

さらに、本文を補完する学習効果の高い資料が大きく掲載され、本文にも付けられた「図番号」により、効果的に学習できるようになっている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、他分野と共通で掲載している資料や特設ページに、「分野関連マーク」が示されており、歴史的分野や公民的分野を意識した多面的・多角的な学習が展開できるようになっている。また、教科横断的な学習を進めることができる、「教科関連マーク」により、QRコードを読み取って該当教科の教科書を参照することで、学習を多面的に深められるようになっている。

「教育出版」は、章・節といった「内容のまとめり」ごとに見通しを示し、それに沿って学習を進めることができる。1単位時間の内容を整理しながら、まとめる活動ができるように「確認・表現コーナー」も設けられている。また、章や節、学習のまとめにより、基礎基本の定着が図れるように工夫されている。

「東京書籍」は、単元のまとめりを重視した構成になっていて、問いの構造化が図られている。1時間の学習の中で、生徒が「学習課題」から見通しをもち、主体的に学習に取り組むことが期待できる。また、「見方・考え方」を働かせながら効果

的に「まとめの活動」を行うことができる教科書であると考え。このような理由から、「東京書籍」を推薦する。

**【質疑応答】**

**○委員**

問題解決的な学習の進め方、社会的な見方・考え方を生かすことについてどのような工夫があるか。

**○選定委員**

「東京書籍」は、各単元の導入部で、単元全体の「探究課題」を立てている。そして「まとめの活動」で、その課題を解決するための「探究のステップ」に取り組むことにより、課題解決的な学習ができるように工夫されている。

また、「みんなでチャレンジ」や「導入の活動」「まとめの活動」等を設け、社会的な見方・考え方を生かしながらか対話的な活動を通してより深い学びができるように工夫されている。

「教育出版」は、タイトルに学習内容を象徴する主題や学習事項を表す副題の表示のほか、学習の流れに沿った教材や資料により、主体的に学習できる構成になっている。

**○委員**

教科書のデジタル化に向けて工夫しているところはあるか。

**○選定委員**

「東京書籍」は、ICT機器を活用して利用できる「Dマークコンテンツ」が設けられている。コンテンツには、さまざまな地図の比べ方をはじめ、領土、領海、領空の区分に関するシミュレーションや気候に関するクイズなどがあり、学習効果が高まるように工夫されている。

「教育出版」は、節の扉のページに「まなびリンク」を設けており、ウェブサイトから、学習に役立つ情報にアクセスできるように工夫されている。

**○教育長**

社会 地理的分野については、「東京書籍」と「教育出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

**○委員一同**

異議なし

**○教育長**

次に、社会 歴史的分野について説明を求める。

## ○選定委員

「社会科 歴史」の教科書は、「東京書籍」、「教育出版」、「帝国書院」、「日本文教出版」、「山川出版社」、「育鵬社」、「学び舎」の7社である。そのうち、選定委員会としては、「東京書籍」、「教育出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」は、課題を「つかむ」「追究する」「解決する」という構成になっている。基礎・基本的な技能を定着させるための「スキル・アップ」や、身に付けた技能を活用する「読み取る」「まとめる」などのコーナーが設けられていて、興味関心をもちながら学習に取り組むことができる。また、單元ごとの学習の流れが明確に把握でき、歴史に対する「見方・考え方」が適宜設けられており、主体的に学ぶ力を養いながら学習に取り組めるようになってきている。「みんなでチャレンジ」では、積極的に社会参画を促したり、持続可能な社会の実現に向けて身に付けるべき学びを深めたりして、他人と協働してよりよい未来社会を築いていこうとする意識や態度が養えるように工夫されている。

各時代の導入では、小学校の学習の振り返りと小集団による活動が設けられていて、單元全体を貫く「探求課題」を立て、学習に見通しをもたせるよう工夫されている。

また、第2～7章の導入とまとめのページには、「政治」「経済・社会・文化」「東アジア」「欧米など」を横断的に見ることができる年表があり、歴史の流れを多面的・多角的につかみやすくなっている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、197ページを見ていただくと、他教科と関連があるページに「他教科関連マーク」が付いている。二次元コードを読み取って該当教科の教科書を参照することで、多面的に学ぶことができるようになっており、インターネットを活用しながら教科横断的な学習が可能となっている。

「教育出版」は、見開きを1単位時間とし、本時の学習をまとめる「確認・表現」のコーナーで、本時の振り返りや、学習したことを活用して表現するようになっている。章末の「学習のまとめと表現」では、時代の特色を言葉で説明する活動が設けられ、歴史的な見方・考え方を働かせて、学びを深められるように工夫されている。

「東京書籍」は、まとめのコーナーにより、知識・技能の基礎基本の習得状況を確認できるようになっていたり、「もっと歴史」のコーナーでは、生徒の興味・関心を引くようなテーマが多く用意されており、生徒が意欲的に学習に取り組めるような構成になっている教科書であると考えられる。このような理由から、「東京書籍」を推

薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

問題解決的な学習の進め方、社会的な見方・考え方を生かすことについてどのような工夫があるか。

##### ○選定委員

「東京書籍」は、「見方・考え方」を働かせるコーナーや思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」により、思考を整理し、学びを深められるようになっている。

また、導入時の「探究課題」の設定、展開時の基礎・基本を確認する「チェック&トライ」、まとめの「探究ステップ」など一連の流れの中で「問いの構造化」を図り、課題解決的な学習が進められるようになっている。

「教育出版」は、本編ページの「確認・表現」や章末の「学習のまとめと表現」でグループによる学習活動が設けられている。協働学習を通して、多角的に理解したり考察を深めたりして、問題解決的な学習ができるように工夫されている。

##### ○委員

教科書のデジタル化に向けて工夫しているところはあるか。

##### ○選定委員

「東京書籍」は、ICT機器を活用して利用できる「Dマークコンテンツ」が設けられている。コンテンツには時期や年代の表し方をはじめ歴史上の人物を問うクイズや鎖国に関するシミュレーションなどがあり、興味関心が高まるように工夫されている。

「教育出版」は、各章の「扉」ページの「まなびリンク」にあるQRコードを読み取ることで、インターネットを活用して学びを広げることができるように工夫されている。

##### ○教育長

社会 歴史的な分野については、「東京書籍」と「教育出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

##### ○委員一同

異議なし

##### ○教育長

次に、社会 公民的分野について説明を求める。

## ○選定委員

「社会科 公民」の教科書は、「東京書籍」、「教育出版」、「帝国書院」、「日本文教出版」、「自由社」、「育鵬社」の6社である。そのうち、選定委員会としては、「東京書籍」と「帝国書院」の2社を推薦する。

「東京書籍」は「見通しを持つ→探究活動→まとめ」という一連の流れにより、生徒が主体的に学習に取り組める工夫がされている。

4ページを見ていただくと、「この教科書の使い方と学び方」のページにより、学習の仕方が明確になっていて、各項の導入資料では絵、写真、図、表など豊富な資料が用意されている。また、「分野関連マーク」や「教科関連マーク」の表示箇所では、インターネットの活用を通じた教科横断的な学習により、学んだことを深めることができるよう、工夫されている。

その他にも、グループで協力しながら取り組む「みんなでチャレンジ」のコーナーが設けられており、今日的な課題について対話的な活動が展開でき、多面的・多角的に考えられるように工夫がされている。また、単元の探究課題だけでなく、節やページごとに学習課題が設定され、学習を積み重ねることで最終的に節の課題を解決できるようになっている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、「文化」、「経済」、「人権」等の具体的な事例を取り上げ、写真や統計資料を活用しながら国際理解・国際交流について学ぶことができる。また、「国連SDGs」を主題とした活動がグローバル化への取り組みや課題解決策の提案など生徒の汎用的能力を高める活動ができる。

「帝国書院」は、現代社会を表すイラストにより、学習内容を身近な生活と関わる形で示すことで、生徒が興味・関心をもって、学習課題を見出せるようになっている。また、「章や節ごとの学習課題」、「本時の学習課題」など様々な学習単位で課題が示され、生徒が見通しをもって学習できるように工夫されている。

その他にも、「先輩たちの選択」、「公民プラス」など、学習内容と実社会との関係を意識した特設のコーナーにより、社会参画に関する学習が大変豊富になっている。

「東京書籍」は、生徒が社会的な課題について対話を通して考察できることや現代社会の見方・考え方を働かせながら学びを深めることができる教科書であると考えられる。このような理由から、「東京書籍」を推薦する。

## 【質疑応答】

### ○委員

問題解決的な学習の進め方、社会的な見方・考え方を生かすことについてどのような工夫があるか。

#### ○選定委員

「東京書籍」は、多様な思考ツールを用いて思考を可視化し、課題の解決に迫る工夫をしている。

さらに、「見方・考え方」のコーナーで、公民的な見方・考え方を働かせて課題を解決させようとする工夫がある。

「帝国書院」は、「アクティブ公民」のコーナーにおいて、現代社会に見られる様々な課題が設定されており、様々な立場を踏まえた上で合意形成を目指す議論により、課題の追究・解決に向けて取り組めるよう工夫されている。

#### ○委員

教科書のデジタル化に向けて工夫しているところはあるか。

#### ○選定委員

「東京書籍」は、2次元コードやURLのリンクから、他分野・他教科の紙面確認や補習用のシミュレーション、動画が活用でき、さらに、学習内容を深化させるための「公民にアクセス」のコーナーや特設ページが設けられている。

「帝国書院」は、2次元コードを利用することで、パソコン等での資料の閲覧や関連動画の視聴、振り返り問題の解答確認ができるようになっている。

#### ○教育長

社会 公民的分野については、「東京書籍」と「帝国書院」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

#### ○委員一同

異議なし

#### ○教育長

次に、地図について説明を求める。

#### ○選定委員

「社会科 地図」の教科書は、「東京書籍」、「帝国書院」の2社である。

「帝国書院」は、大判化されたことで地図をより広域に表せるようになり、他州や他地方とのつながりを捉えやすくなっている。防災や領土に関する地図や資料が充実しており、防災教育や領土問題をテーマとした学習が深められるようになっている。

5ページを見ていただくと、冒頭は使い方を説明しており、色遣いが鮮明で立体

的に地図を見ることができるようになっている。左上には2次元コードがあり、コンテンツも多く収録されている。

また、環境問題や持続可能な開発目標（国連SDGs）の観点に基づいた資料が豊富に掲載されている。

他にも、五街道を表す鳥瞰図を示したり、日本の統計資料に少子高齢化を表す項目を設けたりするなど、歴史的分野や公民的分野でも活用できる工夫がされている。

また、多くのページに「地図活用」の「問い」が設けられていて、課題を追究することで、「社会的な見方・考え方」が身に付けられるようになっている。文字も読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用している。地図の中には「地図活用」も示されており、読図等の技能が身に付くだけでなく、「社会的な見方・考え方」を働かせた課題解決的な学習につながるよう工夫されている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、統計資料を活用してグラフを作成する「数学」との関わりや、自然災害と防災、資源・エネルギーと環境問題といった「理科」との関わりなどにより教科横断的な学びが充実している。

「東京書籍」は、社会科の3分野教科書の内容との連携を図り、教科書にない資料を補充したり、一般図、基本資料、テーマ資料、統計資料など多様な資料を掲載したりし、広い視野に立ち、世界と日本の諸事象や地域的特色を理解し、考察できるようになっている。また、関連する地図や資料を閲覧できるように、デジタルコンテンツへの接続のための2次元コードの掲載や、巻末の資料索引により、主体的な学習に取り組める工夫がなされている。

さらに、適度にキャラクターのふきだしを入れ、「社会的な見方・考え方」のヒントを持たせる工夫がなされていたり、地域の特産物をイラストで表現されていたりして、地図に親しみをもって活用できる工夫がなされている。

「帝国書院」は、地域全体、地域間の結び付きが捉えやすく、生徒が主体的に資料を読み取る力を身に付けられるようになっている。また、資料を比較しながら学習を深められる教科書であると考えられる。このような理由から、「帝国書院」を推薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

掲載されている資料には、学習効果を高めるために、どのような工夫がされているか。

##### ○選定委員

「帝国書院」は、実際の地形図を取り上げ、作業を通して地形図の見方が身に付けられるコーナーが設けられている。

また、左上にタイトル、左右上にページ番号、右端にインデックスが配置され、レイアウトの構造化がなされている。

「東京書籍」は、人口ピラミッドの作成や地形図の読み取りなどの学習に必要な資料が掲載されていたり、「世界」、「日本」、「統計」、「さくいん」でインデックスを大きく色分けしていたりする。

### ○委員

地図中の表記・表現上、どのような工夫が見られるか。

### ○選定委員

「帝国書院」は、基本図で示した地域を位置図で示し、同緯度・同縮尺の日本を示している。また、折り込みページを設けて地図記号を確認しやすくしたり、巻頭の「地図帳の使い方」に多くのページを割いて、内容を丁寧に解説したりするなど、地図が読みやすくなるように工夫されている。

「東京書籍」は、グラデーションや陰影を活用し、立体感のある表現となっており、等高線による地形表現が見やすくなっており、基本図で示した地域を位置図で示している。

### ○教育長

地図については、「帝国書院」と「東京書籍」という推薦があった。これらを参考に、採決することでよいか。

### ○委員一同

異議なし

### ○教育長

次に、数学について説明を求める。

### ○選定委員

「数学科」の教科書は、「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「新興出版社啓林館」、「数研出版」、「日本文教出版」の7社である。そのうち、選定委員会としては、「新興出版社啓林館」、「教育出版」の2社を推薦する。

「新興出版社啓林館」は、学習の過程で働かせた「数学的な見方・考え方」が、顕在化されるようつくりされている。「見方・考え方」は、学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で重要な鍵であり、「新興出版社啓林館」では特に大切にされている。2年生の教科書のオレンジ色の付箋が貼られたページを

見ていただくと、連立方程式の解き方の学習過程で働かせた見方・考え方が、ページの下部に虫眼鏡マークで示されている。「1年生で学んだ方程式の形にすることができないか考えた」といったように、学習者の振り返りの形で見方・考え方をまとめているのが「新興出版社啓林館」の特徴である。そして、それぞれの学習において働かせた「数学的な見方・考え方」を、学習者が振り返り顕在化し続けていくことで、「要するに未習を既習に持ち込めないかと考えればいいんだ」という「文脈に依存しない見方・考え方」へと高めていくことを意図している。また、生徒が自学自習に活用できるようにという視点でも工夫がなされおり、教科書を表紙から開くと「みんなで学ぼう編」として学校での学習部分が展開され、裏表紙から開くと「自分から学ぼう編」として授業外での学習に取り組めるよう構成されている。教科書内には160か所以上のQRコードが掲載されており、問題の解説など様々なコンテンツを閲覧することができる。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、他の教科で学習する内容を、数学を使って考えることができるよう、理科や美術、技術・家庭科などの題材が取り上げられている。

「教育出版」については、「数学的な見方・考え方」を働かせた数学的活動ができるように、演繹・帰納、統合・発展など様々な見方・考え方を巻頭や側注、教科書内の折り返しなどで示している。これらを活用することで、どのような見方・考え方をすればよいかを確認しながら学習を進めることができる。また、節末の「基本の問題」、各章末の「章末問題」、巻末の「補充問題」や「実力アップ問題」など幅広い問題で学習を振り返ったり、定着を確認したりすることができる。

7社のうち、2社について説明をしたが、学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、重要な鍵となる「見方・考え方」の育成は、どの教科書会社でも重視されている。その中で、「新興出版社啓林館」は、学習活動の過程に潜む見方・考え方を、解決の指針のような形で示すのではなく、学習者の振り返りの形で顕在化させている。「教えすぎない、与えすぎない、生徒に気づかせる」といった特徴をもつ「新興出版社啓林館」の教科書は、生徒が自由な発想をしやすい作りになっており、数学科の教員にとっても、自分の強みや個性を生かした授業につなげることができると思う。このような理由から、「新興出版社啓林館」を推薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

教えすぎない、与えすぎていないことから「新興出版社啓林館」がよいとの説明

があったが、教員による差がついてしまうことはないのか。

#### ○選定委員

本教科書で教える教員は、数学科の教員であり、プロフェッショナルである。日常的に、教員一人一人の個性や強みを生かして、日頃から学習内容をかみ砕いてわかりやすく教えている。また、「新興出版社啓林館」以外の教科書は、めあてや考え方など解決の指針を丁寧に示すことで、生徒の思考の流れや解決方法を狭めてしまう恐れがあると考ええる。

#### ○委員

なぜ、小学校と中学校で採用する教科書会社が違うのか。

#### ○選定委員

全教科の指導を担当する小学校の教員にとっては、めあてや考え方など解決の指針が丁寧に示された教科書のほうが使用しやすいと考える。また、発達段階を考えてもめあてや考え方など解決の指針が丁寧に示された教科書のほうが学習しやすいといえる。

それに対して、中学校は教科担任制であり、教科のプロフェッショナルが指導にあたるため、「教えすぎない、与えすぎない、生徒に気づかせる」といった特徴を持つ「新興出版社啓林館」の教科書を使用することで、生徒の自由な発想や幅広い思考を最大限いかした授業となると考える。

#### ○教育長

数学については、「新興出版社啓林館」と「教育出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

#### ○委員一同

異議なし

#### ○教育長

次に、理科について説明を求める。

#### ○選定委員

「理科」の教科書は、「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「新興出版社啓林館」の5社である。そのうち、選定委員会としては、「東京書籍」、「教育出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」は、探究を進める中で観察・実験・観測・実習が適切に位置づけられている。特に、第2分野の内容では野外観察や継続観測など、自然の事物・現象への直接的な取り組みを通して、よりよく理解できるように構成されている。また、

それぞれの節の構成が「問題発見→仮説→実験・観察→考察→新しい問題発見」のように、問題解決の過程が一貫されており、学習を進めていく中で生徒の問題解決の資質・能力が育成されるようになっています。

1 学年 77 ページを見ていただきたい。「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、チェーンのマークで「〇〇で学ぶこと」「〇〇で学んだこと」が明記してある。他教科の学習内容との関連を示し、より深い理解につながるよう配慮されており、このページでは、技術科での学習内容との関連が示されている。

「教育出版」は、巻頭にある「探究の進め方」や教科書の使い方の説明により、生徒が見通しをもって学習できるよう工夫されている。各単元も、この「探究の進め方」の流れに沿った構成となっている。

また、思考力・表現力を育成できるように、「私のレポート」として学んだことのまとめ方についての参考例が掲載されており、レポート指導に活用できるようになっている。

5 社のうち、2 社について説明をしたが、中学校学習指導要領、理科では、課題の「把握（発見）」、「探究（追究）」、「解決」という過程による学習活動を行い、それぞれの過程において、資質・能力が育成されるよう指導の改善を図ることが必要である、となっている。また、平成 30 年度に実施された全国学力学習状況調査での本市の子供たちの結果から、理科で学習した知識・技能を活用できるようにするためには、「個人で考えさせた後に、グループで互いの考えを共有する」学習が必要であることがわかった。「東京書籍」の教科書は、生徒がじっくりと課題に向き合い、個人の考えをグループで比較検討し合う作りになっており、学習過程において資質・能力を育成する授業作りに適していると考えられる。このような理由から、「東京書籍」を推薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

熊谷の子供にとって、最も適した教科書はどれか。

##### ○選定委員

「東京書籍」の教科書である。「科学のミカタ」など、生徒が小学校で培った問題解決の能力をふまえて学習を進めることができる内容構成になっている。熊谷の生徒の課題でもある、「濃度を求める」など、生徒がつまづきやすい部分も細かく説明がされている。

##### ○委員

教師にとって指導しやすい教科書はどちらか。

#### ○選定委員

「東京書籍」の教科書である。実験観察の表記において、「東京書籍」は「結果の見方」としてヒントを提示しているので考えさせることができる。「東京書籍」の方が柔軟な学習指導が行えるようになっている。

#### ○教育長

理科については、「東京書籍」と「教育出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

#### ○委員一同

異議なし

#### 【休憩】

#### ○教育長

次に、音楽 一般について説明を求める。

#### ○選定委員

「音楽科」の教科書は、「教育芸術社」と「教育出版」の2社である。

「教育芸術社」は、表現と鑑賞の学習がバランス良く配置されている。具体的には、鑑賞活動を通して「音楽を形づくっている要素」を捉えたり、感じ取った音楽の要素を生かして自分たちの表現活動を進めたりすることができるように、教材が適切に配置されている。

2・3年生の上巻、17ページを見ていただくと、基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指し、「リズムゲーム」や「リズムアンサンブル」のページの他、「My Voice!」では中学生の発達段階に応じた、無理のない歌い方の確認が出来るように工夫されている。

また、思考力、判断力、表現力を高めるためのヒントとして、教室場面を想定した生徒達の発言や教師の助言が吹き出しで示されており、自分の考えを広げたり、深めたりすることに繋がるような工夫が見られる。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、本書では、音楽科の学習と他の教科等の学習との横断的な学習の実施について、配慮されている。歌唱教材や鑑賞教材において、我が国や郷土の音楽文化の継承に力を入れた歌舞伎や長唄、文楽（人形浄瑠璃）などの他、諸外国の音楽文化に対する理解が深められるよう、アジアをはじめ世界の諸民族の音楽なども幅広く扱っている。

さらに、心の触れあいの大切さを味わえる歌唱教材を取り上げるなどし、道徳科

との関連にも配慮がされている。

「教育出版」は、「学びのユニット」で年間の学習内容を関連づけて示すとともに、学びのねらいと学習する曲や活動、学習を生かして比較する曲等が分かりやすく示されている。年間を通じて様々な音楽を比較して学習し、共通性や固有性を考え、音楽への理解を深める工夫がされている。

内容については、基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指し、例えば、「Let's Sing!」のページでは、歌唱表現の基礎的な技能や創意工夫して表現するための解説を示し、生徒が教科書に直接書き込みながら学習できるようにしている。

また、「ACTIVE!」や「Let's Sing」のコーナーでは、思考力、判断力、表現力を高めるために、音楽を形づくっている要素や楽曲の雰囲気について、根拠をもとに言葉で表す活動や他者と話し合う活動を重視した構成になっている。

本市では、日ごろより「学習内容の明確化」を図った授業実践を行っているところであり、音楽科においても、教科横断的な学習の視点だけでなく、「その楽曲で音楽の何を学ぶのか」といった視点から見ても、「教育芸術社」は、学習のねらいや「音楽を形づくっている要素」が焦点化されて分かりやすい教科書であると考えられる。このような理由から、「教育芸術社」を推薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、どのような配慮や工夫がなされているか。

##### ○選定委員

「教育芸術社」では、生徒が意見を交流し、学びを深めることができるよう、キャラクターの吹き出しなどでヒントが示されているほか、専門家からのメッセージにより自分の考えを広げたり深めたりすることができるように配慮されている。

「教育出版」では、自分の考えや感じ取った曲想、曲想と音楽の構造との関わりなどをまとめ、交流できるように工夫されている。

##### ○委員

教員の指導のねらいに照らして適切な教材となっているか。

##### ○選定委員

「教育芸術社」では、ねらいに即した学習内容や関連教材が有機的に組織されており、教材の学習活動の分量を弾力的に増減できるように配慮されている。1年生の教科書教材では、表現教材が28、鑑賞教材は72となっている。

「教育出版」では、歌唱、器楽、創作、鑑賞の各活動と関連させながら、生徒や学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。1年生の教科書教材では、表現教材21、鑑賞教材は49となっている。

#### ○教育長

音楽 一般については、「教育芸術社」と「教育出版」という説明があった。これらを参考に、採決することによいか。

#### ○委員一同

異議なし

#### ○教育長

次に、音楽 楽器について説明を求める。

#### ○選定委員

「教育芸術社」は、各楽器の構造や各部の名称が、写真や図、イラストで示されており、特に楽器の構え方については、複数の角度から写真が掲載され、奏法などの説明が丁寧にされている。

「中学生の器楽」16ページを見ていただくと、器楽の基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指し、今回の改訂では、ソプラノリコーダーの楽曲数が拡充され、リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明では、図形絵譜等により、音や演奏イメージをもちやすくなる工夫がされている。

リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、易しい曲から練習できるような工夫が見られる。

教科書の前半にある「アンサンブルセミナー」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことにより、自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるように配慮されている。

また、和楽器を扱った教材としては、箏や三味線、篠笛や尺八等の奏法をはじめ、鑑賞活動との関連を図ることで、楽器の音色の響きや美しさを感じ取ることができるように工夫されている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、和楽器だけでなく、世界の様々な楽器が取り上げられており、国際理解の視点から見ても、音楽科と他教科等の教科横断的な学習を進めることができるものになっている。

「教育出版」は、各楽器の基礎の習得から多彩な組み合わせによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げられている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができ

るように工夫されている。

器楽の基礎・基本の知識及び技能の習得の視点では、学習のねらいに対し、練習を重ね、まとめの一曲という一連の流れとなっており、段階的に技能を習得できるように配慮されている。

また、吹く楽器と弾く楽器について共通性や固有性を考え、話し合う場面によって、協働的な活動ができるように工夫されている。

音楽科 一般の教科書と同様に、「学習内容の明確化」という視点からみても、共通事項である音楽を形づくっている要素が焦点化されていることや、学習内容との系統性がしっかりと確保されていることから、本市の生徒が音楽科の学びを深めることができる適切な内容になっている「教育芸術社」を推薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

我が国の伝統や文化に関する教材の扱いにおいては、生徒が我が国の郷土の音楽に愛着がもてるように、どのような配慮がされているか。

##### ○選定委員

「教育芸術社」では、和楽器の奏法に関するだけでなく、姿勢や礼儀などについてのコラムも掲載され、適切に配置されている。また、学習の導入として、各和楽器を用いた鑑賞曲も取り上げられており、我が国の伝統的な音楽文化の理解という観点からも適切な内容となっている。

「教育出版」では、和楽器の基本的な奏法や表現の工夫のほか、口唱歌（くちしょうが）を取り入れた学習や、和楽器と西洋楽器の固有性や共通性を学ぶ比較鑑賞などの活動を通して、深い学びにつなげる配慮がされている。

##### ○委員

楽譜をはじめ、図や説明文などは、学習指導を進める上で適切であるか。

##### ○選定委員

「教育芸術社」では、楽譜が全体的に見やすく、文字の大きさや楽譜の線の太さ、音符の大きさや形など、細部にわたって配慮されている。和楽器では、和楽器固有の記譜法を掲載するなど、様々な指導方法に適応できるように工夫されている。

「教育出版」では、巻末にある「音楽の約束」で、音符や休符、記号等の解説のほか、音や音楽のイメージがもてるように、図形等で示されるなどの配慮がされている。

##### ○教育長

音楽 楽器については、「教育芸術社」と「教育出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

#### ○委員一同

異議なし

#### ○教育長

次に、美術について説明を求める。

#### ○選定委員

「美術科」の教科書は、「開隆堂出版」、「光村図書出版」、「日本文教出版」の3社である。そのうち、選定委員会としては、「日本文教出版」と「開隆堂出版」の2社を推薦する。

「日本文教出版」は、美術を通して自分らしさを見つけ、思いを形にする大切さや楽しさを「3年間の成長地図」で紹介するとともに、発達段階に応じて学ぶべき内容が分かりやすく示されている。

32、33ページを見ていただくと、題材名の上にあるサブタイトルや「学びの目標」の三つの観点により、それぞれの題材で「何を学び」、「何ができるようになるか」が明確に示されている。例えば、「学びの目標」では、「〇〇をとらえる」「〇〇について考え、鑑賞する」等の表記により、生徒にねらいをしっかりとつかませる工夫をしている。題材の解説文では、造形的な視点とともに、何に注目すればよいか、造形的に捉えるためのポイントが明確化されている。実際に、観音開きを開いて折ることにより、屏風の奥行きや見え方の違いなどを実感的に理解するための工夫がされている。

また、「学びを支える資料」では、ちょっとしたメモ描きをノートに貯めるなどアイデアを生み出す芸術家の発想方法を紹介している。中学生に分かりやすい発想や構想の手立てを示しており、生徒の「やってみよう」という意欲を引き出し、自ら主題を生み出せるように、たくさんのヒントを掲載し、生徒一人一人の表現の幅が広がるように配慮されている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、道徳との関連を意識して学べるよう、関連するページの下部には、道徳マークと内容項目に対応した文章を示している。

「開隆堂出版」は、知識や理論の学習に偏らないよう、学ぶ内容や学習の魅力を生徒に理解させた上で、表現や鑑賞の学習へとつなげる工夫をしている。また、題材の導入や作品解説、作者の言葉や「美術の用語」を示し、生徒の理解を助ける工夫がある。

各題材にQRコードを掲載し、鑑賞に役立つ資料、用具の使い方、制作手順やポ

イントを動画で視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。

「日本文教出版」は、掲載されている作品の表現の幅が広く、生徒の表したい思いに応じて、アレンジしていくことができる教科書だと考える。このような理由から、「日本文教出版」を推薦する。

**【質疑応答】**

**○委員**

小学校はどこの教科書を使っているのか。

**○選定委員**

小学校は、「日本文教出版」である。

**○教育長**

美術については、「日本文教出版」と「開隆堂出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

**○委員一同**

異議なし

**○教育長**

次に、保健体育について説明を求める。

**○選定委員**

「保健体育科」の教科書は、「東京書籍」、「大日本図書」、「大修館書店」「学研教育みらい」の4社である。そのうち、選定委員会としては、「学研教育みらい」と「大日本図書」の2社を推薦する。

「学研教育みらい」は、すべての項目で「学習の目標」「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の4つのステップで構成されている。「キーワード」を掲載し、その時間で習得した知識を活用できるように工夫されている。

特に、「まとめる・深める」では、「見方・考え方」が示されており、グループでの話し合い活動や、自分の未来やキャリアを考える言葉等が示され、学習内容が深まるように工夫されている。

また、章のまとめの振り返りと自己評価にも工夫が見られる105ページ、第3章の健康な生活と病気の予防②、「振り返ろう」を見ていただくと、自己評価の観点具体的に示されており、振り返りと評価の一体化が図られている。また、「知識」の評価では「生活習慣病を引き起こす要因と予防の仕方について、P86～89」と示してあり、既習内容を振り返りながら自己評価ができるように工夫されている。

「思考・判断・表現など」についても同様に具体的に示されている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、「キーワードで見る保健体育の学習内容」の中で、他教科等との関連が深められるようになっており、より関連深いものを厳選して掲載してある。

「大日本図書」は、1時間の学習の流れを「学習のねらい」「つかもう」「話し合ってみよう」「活用して深めよう」の4つのステップで構成されている。すべての単元において、左のページは「学習のねらい」「つかもう」、右のページは「話し合ってみよう」「活用して深めよう」と示してあり、一貫性のある見開きページで、授業の流れを作りやすい内容になっている。

また、表記においては、文章構成、イラスト、表やグラフが見やすく、特に心肺蘇生法のページは、3ページ分の見開きとし、心肺蘇生法の流れと方法が写真と図により、わかりやすくなっている。

学習指導要領が目指す育成すべき資質・能力である、主体的、対話的で深い学びを進めるにあたり、「学研教育みらい」は、小単元の標記が簡潔であり理解しやすいこと、配色や文章表現が精査されており見やすいことから、生徒の学習理解のしやすさ、若手教員からベテラン教員までが指導しやすい教科書であると考えられる。このような理由から、「学研教育みらい」を推薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

「学研教育みらい」と「大日本図書」の2社において、大きな違いはあるか。

##### ○選定委員

1年生「心身の発達と心の健康」の単元を例に挙げますと、大きな違いがある。社会性と自己形成を学ぶ場面では、「学研教育みらい」は、社会性と自己形成を別に示し、自分らしさを探す、思春期とのつきあい方をじっくり考える構成となっているが、「大日本図書」は分けずに合わせて示されている。

##### ○委員

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」に関しての違いはあるか。

##### ○選定委員

「学研教育みらい」は、他教科との関連が巻末の見開きで厳選して示されており、保健体育科の先生だけでなく、他教科の先生も関連事項が把握しやすく、指導のしやすさにつながっていくものと考えられる。「大日本図書」は他教科との関わりを、小単元ごとに示してある。

○教育長

保健体育については、「学研教育みらい」と「大日本図書」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、技術・家庭 技術分野について説明を求める。

○選定委員

「技術・家庭科 技術分野」の教科書は、「東京書籍」、「教育図書」、「開隆堂出版」の3社である。そのうち、選定委員会としては、「開隆堂出版」と「東京書籍」の2社を推薦する

「開隆堂出版」は、各内容とも見方・考え方に「気づく」、見方・考え方を「はたらかせる」、振り返りで「定着させる」の3段階で構成されている。導入部分で具体的な製品を示し、技術の見方・考え方を解説して課題を提示しており、科学的な原理や仕組みを押さえた解説や深めた実験を配置して理解が深まるような工夫をしている。各内容の最後にはこれからの技術や学習のまとめがあり、生徒自身が技術への関心や課題意識をもてるよう工夫している。また、各内容とも最初に基本的な知識の学習を行い、その後「問題解決の手順（内容A）」、「技術による問題解決（内容BCD）」について学習する構成になっている。

技術と生活や社会、環境との関わりについては、各界で活躍する人や企業を取り上げたり、特色ある活動の地域を紹介したりして、身近な技術について興味をもてる工夫がしてある。

46、47ページを見ていただきたい。このページのように、どの内容も「問題解決の流れ」として見開きで表記している。そして、第3章のはじめは「学習を振り返ろう」として、技術と生活や社会、環境との関わりと関連させながら学習する構成になっている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、家庭分野や他教科との関連のある学習内容が、アイコンで表記されており、教科横断的な学習がしやすいような配慮がされている。

「東京書籍」は、各内容とも「技術の原理・法則と仕組み」、「技術による問題解決」、「社会発展と技術」で構成されている。技術の見方・考え方に気付けるとともに、本文の内容を裏付ける図などを掲載して、科学的な思考に基づく知識と技術が

習得できるように工夫されている。

また、各内容とも最初に基本的な知識の習得を行い、その知識を活用しながら「技術の工夫を読み取ろう」、「問題を発見し、課題を設定しよう」という学習内容で構成されている。学習の流れを「問題解決カード」として該当ページの上部に表記している。

指導すべき内容を、教科書で教える上で、子供達が学習の流れを把握できることや、挿絵や説明を通して、技術分野としての知識・技能を高めることができる等、指導の一助となる事が重要と考える。本市の教員が生徒及び地域の実態に応じて、指導の幅を広げ、より生徒の学びを深めることができる視点で見ると「開隆堂出版」は、技術への関心や課題意識を高める内容の構成になっていると考える。このような理由から「開隆堂出版」を推薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

問題解決的な学習の進め方、社会的な見方・考え方を生かすことについてどのような工夫があるか。

##### ○選定委員

「開隆堂出版」は、各内容とも見方・考え方に「気づく」、見方・考え方を「はたらかせる」、振り返り「定着させる」で構成されている。

「東京書籍」は、各内容とも最初に基本的な知識の習得を行い、その知識を活用しながら「技術の工夫を読み取ろう」、「問題を発見し、課題を設定しよう」という学習内容で構成されている。

##### ○委員

環境との関わりについて、理解を深める工夫はあるか。

##### ○選定委員

「開隆堂出版」は、「国連SDGs」や「5つのP」を意識し、各領域で、持続可能な社会を意識した内容を最後に配置し、教科を通して意識できる構成になっている。

「東京書籍」は、「Society5.0」や「国連SDGs」などのこれからの社会に求められていることがわかりやすくまとめられている。

##### ○教育長

「5つのP」とは何か。

##### ○選定委員

「国連SDGs」の17の目標を5つのキーワードで考えたものである。

○教育長

技術・家庭 技術分野については、「開隆堂出版」と「東京書籍」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、技術・家庭 家庭分野について説明を求める。

○選定委員

「技術・家庭科 家庭分野」の教科書は、「東京書籍」、「教育図書」、「開隆堂出版」の3社である。そのうち、選定委員会としては、「開隆堂出版」、「東京書籍」の2社を推薦する。

「開隆堂出版」は、教科書全体を通して、学習過程が統一されており、問題解決に向けて取り組みやすくなる工夫がされている。

70ページを見ていただくと、学習のはじまりのページに「わたしの興味・関心」が設けられている。自分の問題意識や課題意識から、自ら解決に取り組めるような工夫がされている。

内容としては、「調理方法Q&A」や「製作の基礎・基本」を掲載する等、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための配慮がされている。また、「話し合ってみよう」のように、対話や意見交換ができる学習活動が取り入れられており、生徒自らの考えを広げたり深めたりできる工夫がされている。「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、共生を意識させる写真の掲載や多様な考え方、また、理科や技術科など、他教科との関連が明記されており、教科横断的な学習が可能となっている。

「東京書籍」は、身に付けさせたい技能を「いつも確かめよう」にまとめて掲載したり、各節の最後には「まとめの活動」を設け、自己評価をさせたりする等、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がされている。また、各編の導入では、見方・考え方の例を示すなど問題解決に生かす工夫がされている。

新学習指導要領では、「生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践、評価・解決する」という学習過程が重視されている。「開隆堂出版」は生活の中から課題を発見し、自ら課題に取り組めるように構成されており、問題解決学習がスムーズに展開できる点からも、熊谷市の子供たちにとってふさわ

しい教科書だと考える。このような理由から「開隆堂出版」を推薦する。

**【質疑応答】**

**○委員**

環境との関わりについて理解を深める工夫はあるか。

**○選定委員**

「開隆堂出版」は、「国連SDGs」や「5つのP」を意識し、各領域で、持続可能な社会を意識した内容を領域の最後に配置し、教科を通して意識できる構成になっている。「東京書籍」は、「Society5.0」や「国連SDGs」などこれからの社会に求められていることがわかりやすくまとめられている。

**○委員**

教科書のデジタル化に向けて工夫しているところはあるか。

**○選定委員**

「開隆堂出版」は、QRコードで動画の視聴ができるようになっている。

「東京書籍」は、Dマークでの動画視聴ができるようになっている。

**○教育長**

技術・家庭 家庭分野については、「開隆堂出版」と「東京書籍」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

**○委員一同**

異議なし

**○教育長**

次に、英語について説明を求める。

**○選定委員**

「外国語」の教科書は、「東京書籍」、「開隆堂出版」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書出版」、「新興出版社啓林館」の6社である。そのうち、選定委員会としては、「光村図書出版」と「開隆堂出版」の2社を推薦する。

「光村図書出版」は、各単元の「Part」の項目において、現実に即したコミュニケーションに近づくための具体的な目的や場面、状況が設定され、即興的にやり取りする活動を継続して指導できる工夫がある。

また、ストーリーの内容を伝える言語活動を通して、聞き手や読み手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができる。

1年生136、137ページを見ていただきたい。このページでは、今まで繰り返

し学んできた知識、技能を活用し、場面絵を用いることで状況を想起させ、思考力・判断力・表現力を育成していくことができる。

また、「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、日常生活や国連SDGsなど実社会の課題のほか、教科横断的な学習が可能となっている。例えば、社会、美術、音楽との関連を図れるように、世界各国の地理や文化を取り上げている。

さらに、1学年から3学年までの教科書の構成がひと続きのストーリーになっているため、4人の中学生の生活を通して共感や情操を培うこともできる。

「開隆堂出版」は、各プログラムの初めで、「目的」・「場面」・「状況」や「言語材料」等を漫画と関連付けて理解させる工夫や、「聞くこと」、「話すこと」、「書くこと」の3段階の活動により、計画的に知識・技能を習得できるように構成されている。家庭学習でQRコードを利用して音声の確認もできる。

また、各学年の巻末に「英語でできるようになったことリスト」があり、指導のめあてとしても活用できる。

「光村図書出版」は、生徒の日常生活、実生活に近い話題を多く取り入れており、生徒が共感しやすい内容構成になっている。生徒がイメージをもちやすい内容であるとともに、英語の5つの領域、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと【やりとり】」、「発表」、「書くこと」を学ぶ上で、生徒の学びをさらに深めるとことができると考える。「子供が自信を持って自己表現できる授業」を目指している熊谷ラウンドシステムの推進に適している教科書であると考えます。このような理由から、「光村図書出版」を推薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

熊谷市では、英語の授業はラウンド制で行われているが、ラウンド制に合った教科書というものはあるか。

##### ○選定委員

ラウンドシステムの授業は、教科書を年間に4～5回繰り返し扱うカリキュラムの性質上、登場人物やストーリーの展開について一貫した流れがあるものが、生徒にとって親しみやすいと考える。

「光村図書出版」では、單元ごとのストーリーではなく、テキスト全体が、3年間を通して一貫したストーリーで展開されている。さらに、「Goal」や「You Can Do It!」で、統合的な言語活動や生徒が興味を持って取り組める問題解決型の活動が組み込まれており、理解したことを表現につなげる言語活動が展開できる。

「開隆堂出版」では、ストーリーを追いながら題材内容について「推量発問」や「自由回答形式の設問」があり、自分の考えを表現させることができる。

#### ○委員

知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を養う点で工夫した点はあるか。

#### ○選定委員

両社とも、目的、場面、状況を捉え理解を深めた後、自己表現や統合的な言語活動に取り組ませ、思考力、判断力、表現力等を高める構成になっている。また、これまでの教科書に比べ分量の多い論理的な説明文や物語文を読む機会を設定している。

#### ○教育長

英語については、「光村図書出版」と「開隆堂出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することでよいか。

#### ○委員一同

異議なし

#### ○教育長

次に、道徳について説明を求める。

#### ○選定委員

「道徳科」の教科書は、「東京書籍」、「教育出版」、「光村図書出版」、「日本文教出版」、「学研教育みらい」、「廣済堂あかつき」、「日本教科書」の7社である。そのうち、選定委員会としては、「東京書籍」、「日本文教出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」は、生徒たちが他者と協働しながら未来を切り拓いていく力を身に付け、その力がよりよい自己形成やよりよい社会づくりに向かうよう、多様な教材の選定や、「考え議論する道徳」を実現するための学びの仕組みが工夫されている。

まず、教材については、「生命尊重」と「いじめ問題」を重点テーマとしており、それぞれ3つの教材をまとめて学習できるようになっている。1時間目は見開きのイラストを見て、いじめに当たる行為について考え、2時間目は、傍観者や観衆に焦点を当て、いじめについて考える。3時間目は、これまで生徒一人一人が考えたことを踏まえ、「自分はどのようにいじめと向き合っていけばよいのか」について、生徒が親しみやすいイラストを扱い、考えを深める工夫が見られる。

また、教材の冒頭には、内容項目に関連したテーマが示されており、ねらいを意識して授業を展開することができるように工夫されている。教材によっては、導入で生徒が親しみやすいイラストを扱ったり、生徒へ質問を投げかけたりすることに

より、生徒の興味関心を高める工夫がされている。さらに、教材末尾には多面的・多角的に考えたり、自己の生き方について考えたりしながら、本時のねらいに迫る問いが工夫されている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりだが、教材名の下に関連する教科が示されており、教科横断的に学習を進めることができる。中学校1年生の124ページを見ていただくと、「国際理解、国際貢献」という視点で、他国の人々の文化や習慣を尊重し、世界の中の日本人としての自覚をもたせ、世界の平和と人類の発展に寄与しようとする態度を育てる教材となっており、社会科との関連を図ることができる。

「日本文教出版」は、「考え、議論する道徳」の授業を実現するために、「道徳ノート」を活用し、自分の意見と他者の意見を比較しながら考える工夫がされている。また、巻末には、保護者が記入する欄があるため、家庭との連携にも配慮されている。

「東京書籍」は、熊谷市が重点としている「生命尊重」、「いじめ問題」において、多様な教材を選定している。また、発達段階を考慮して、系統的に学習を進めることにより、生徒の道徳性を育むことに適している教科書であると考え。このような理由から、「東京書籍」を推薦する。

#### 【質疑応答】

##### ○委員

現代的な課題である「生命尊重」や「いじめ問題」などの題材を教材として取り上げる上での工夫はどのようにされているか。

##### ○選定委員

「東京書籍」は、「いじめ問題」と「生命尊重」について、複数教材を通していろいろな角度からそれぞれの問題の考えを深めるよう工夫されている。また、各学年に「情報モラル」に関する教材を配置し、SNSでのいじめなど新しい問題を掲載している。

「日本文教出版」は、「いじめ防止」を重要テーマとしていて、複数の教材・コラムを組み合わせた教材を年間に複数配置し、集中的・継続的に考えられるよう工夫している。

##### ○委員

「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫はどのようにされているか。

### ○選定委員

「東京書籍」は、「話し合いの手引き」により、話し合いの手順やルールが示されており、学習の際に生徒が活用できるよう工夫されている。また、全学年に役割演技などの手立てを示す「ACTION」を掲載し、話し合いや体験的な学習を通して考えが深まるよう工夫されている。

「日本文教出版」は、「道徳ノート」において、多様な話し合いに対応させるため、友達の意見と自分の意見を左右で比較できるよう工夫されている。

### ○教育長

道徳については、「東京書籍」と「日本文教出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

### ○委員一同

異議なし

### 【休憩】

### 【選定委員会委員及び傍聴人退出】

### 【再開】

(採決については非公開)

【「議案第28号 令和3年度使用中学校用教科書（特別の教科 道徳を含む）の採択について」の採決結果】

国語、教育出版株式会社

書写、教育出版株式会社

社会（地理的分野）、東京書籍株式会社

社会（歴史的分野）、東京書籍株式会社

社会（公民的分野）、東京書籍株式会社

地図、株式会社帝国書院

数学、株式会社振興出版社啓林館

理科、東京書籍株式会社

音楽（一般）、株式会社教育芸術社

音楽（器楽）、株式会社教育芸術社

美術、日本文教出版株式会社

保健体育、株式会社学研教育みらい

技術・家庭（技術分野）、開隆堂出版株式会社  
技術・家庭（家庭分野）、開隆堂出版株式会社  
英語、光村図書出版株式会社  
道徳、東京書籍株式会社

教育長の宣言により、令和2年7月臨時熊谷市教育委員会を閉会した。

(11時30分 閉会)

署名 教育長 野原 晃

委員 西山 富由紀